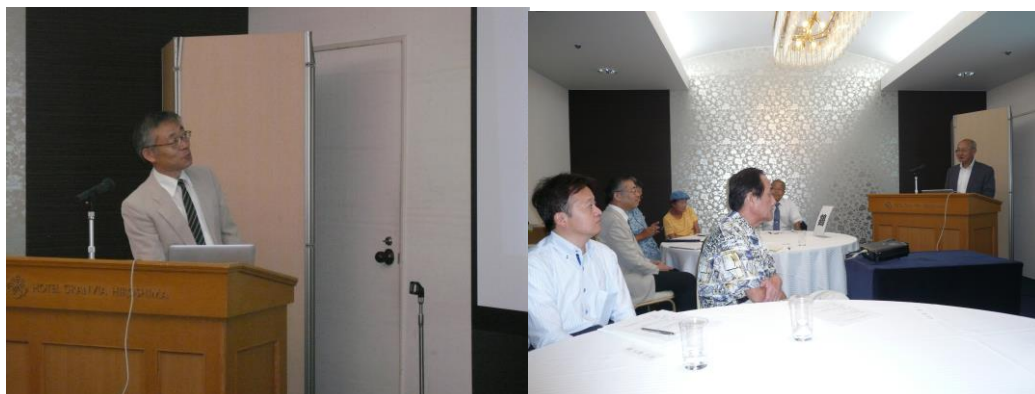


## 理学部鶴風会中国支部便り

中国支部支部長 大倉 健二 (S44・化学)

平成 29 年 7 月 29 日(土)、ホテルグランヴィア広島において、大学より高橋理学部長、鶴風会より風呂田理事長・進藤理事をお迎えし、東邦大学理学部鶴風会中国支部総会を開催しました。来年は 7 月 1 日(日)開催で猛暑を避けようということになりました。

高橋理学部長からは理学部のキャリア支援体制も充実、卒業生の就職後離職率は全国平均よりも低く企業の評価も高いそうです。女性は真面目に勉強するため例年の鶴風会成績優秀賞は、ほとんど女性だったそうですが、今年はほとんど男性だったそうです。よく遊びよく学ぶ、我々の時以上にキャンパス生活をエンジョイ、充実した学生生活を糧に社会で活躍されている卒業生が増え、同窓生としても頼もしい限りです。



「お話をされる高橋理学部長」

「お話をされる風呂田理事長」

講演会では風呂田理事長(S4・生物 東邦大学名誉教授)による「首都圏の海、東京湾の生物調査と環境再生にむけた取り組み」では貴重な経験談を聞くことができました。先生は干潟生物調査の第一人者として干潟を通じ東京湾の再生をされたとお聞きしていましたが、現実は甘くなく東京湾の汚染は進行、産官学の連携を通じた息の長い調査と技術の向上が大切で、継続は力なりで先生は大学退職後もライフワークとして海洋生物生態の研究を続けられているそうです。

当日の支部総会参加の最高齢の理専卒の加藤さん(S23・生物)は、ご自分で車を運転、エネルギッシュにいろんな所に出かけられているそうです。



二次会は高橋理学部長・古澤広島大学副学長（S54・生物）・杉田副支部長（S52・化学）・荒山さん（平8・化学）の老・壮・若、広島で取れたイワシの天婦羅を肴に、昔の馬小屋と東邦時代の思い出話で盛り上がりました。大学から遠く離れUターンした同窓生は少ないものの、カープの選手のように小粒でもぴりりと辛い山椒の如く好きなことにマイペースで打ち込んできた同窓生、自然・生命・人間を標榜する東邦大学に相応しい面々ということでしょうか。